

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 (かがやき特別支援学校)

1 目指す姿

| | |
|---------------------|--|
| <p>(1) 目指す学校像</p> | <p>医療及び福祉機関と連携した教育環境のもとで、子どもたちが学びあい教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子どもたち自身が自分の願いや目標を達成できるように指導・支援する学校</p> <p>○隣・併設する病院と連携し、病院の多職種（医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等）と連携した「チームかがやき」として入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。</p> <p>○本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育・肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。</p> <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院（以下、三重病院）・三重大学医学部附属病院小児科病棟（以下、三重大学病院）との連携による病弱虚弱教育の拠点校</p> <p>【草の実校】 三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携による肢体不自由教育の拠点校</p> <p>【あすなる校】 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携による発達障がい支援の拠点校</p> |
| <p>育みたい児童生徒像</p> | <p>○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切に子ども</p> <p>○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども</p> <p>○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども</p> <p>【緑ヶ丘校】 一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切にし、確かな学力を身につけ、自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。</p> <p>【草の実校】 一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。</p> <p>【あすなる校】 一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</p> |
| <p>(2) ありたい教職員像</p> | <p>○隣・併設する病院と緊密に連携し、病弱教育・肢体不自由教育、および発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、入院する児童生徒の気持ちに共感し、寄り添う姿勢で、授業改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本県の病弱教育・肢体不自由教育および発達障がい支援の中核となる学校の教員として県内の特別支援教育を推進するという使命感をもち、3校共通の校務分掌組織（指導部・運営部・支援部で構成される3部体制）のもとで同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。</p> <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院・三重大学病院の小児科病棟との連携</p> <p>【草の実校】 医療センターの整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟との連携</p> <p>【あすなる校】 医療センターの児童精神科、あすなる病棟との連携</p> |

2 現状認識

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| <p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p> | <p><児童生徒> ○毎日元気に登校ができ、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。 ○「わかる授業」に基づく学力の保障や退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。 <保護者> ○退院後の復籍に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。 ○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる <前籍校> ○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復帰を期待している。</p> | |
| <p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p> | <p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> ○復学時等に学習進度で遅れないこと <前籍校> ○治療後の円滑な復籍 <病院> ○治療に有効に寄与する学校生活の充実と情報共有 ○支援の共通理解、役割分担の明確化 <関係諸機関> ○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供 ○生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p> | <p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> ○見守りや教育活動に対する理解と協力 <前籍校> ○支援情報の共有 <病院> ○医療情報等の共有と密接な連携 ○教育環境・内容の充実に係る理解と協力 <関係諸機関> ○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援 ○就労についての理解と就業体験の機会の増加</p> |
| <p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p> | <p>・高校生支援など新しい取組も加わり、各校ともに実践と研修にしっかり取り組んでいるので、その成果を積極的に地域に発信するべき。対応に苦慮している小中学校や高等学校の教員の支えになることがセンターオブセンターの価値であるはず。 ・子どもの学びの場を3校間で柔軟に対応していく点など、かがやきとして一つの学校になったことを念頭に今後も医療と連携した学校運営を進めてもらいたい。 ・教員の時間外労働等の増加にも関係するが、病院に入院する児童生徒が安心して学習できる環境が不可欠であり、必要な教員数の配当を県にもしっかりと働きかけてもらいたい。</p> | |
| <p>(4) 現状と課題</p> | <p>教育活動</p> | <p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。 ○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフ等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。 ○隣・併設する病院と連携した「チームかがやき」として機動力のある支援体制を構築し、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、HPや理解啓発用冊子を利用して医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p> <p>学校運営等</p> <p>○本・分校3校によるスケールメリットを活かし、3校が連動した一体感のある校務運営（指導部・運営部・支援部の3部体制）を進めることで、効率的・合理的な運営に努めるとともに時間外労働時間の削減につなげる必要がある。 ○学校における不祥事（体罰の項目含む）の再発防止に向け「信頼される学校であるための行動計画」をふまえた学校運営を進め、学校の全教職員にコンプライアンスの徹底を浸透させる必要がある。 ○教職員が自ら学び生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、職員満足度の向上を図る必要がある。</p> |

○多様な教育的ニーズへの対応

【緑ヶ丘校】

児童生徒の病状や学習状況を転入時に丁寧に把握した上で、一人ひとりの病状に配慮した教育活動を行い、復籍を見据えて確実な支援を進める。また病状に応じて柔軟に対応できるオンライン教育について引き続き研究を進め、実践につなげる。

【草の実校】

医療センターとの連携や外部講師を活用した研修等をとおして、学校全体で肢体不自由教育に係る専門性の向上に努め、的確なアセスメントに基づく丁寧な実態把握によって、自立活動の指導を中心とした授業改善を図ることで自立と社会参画につながる力の育成を図る。

【あすなる校】

発達障がいのある児童生徒の指導で使用している教材の作成の目的や使用法等を整理し、校内での共通認識を図るとともに、復籍支援の際に前籍校の教員に情報提供できるようにする。

○前籍校への復籍支援

【緑ヶ丘校】

三重病院や三重大学病院、前籍校等と入院直後から緊密に連携して、児童生徒や保護者の安心感につながる復籍支援を進める。

【草の実校】

医療センターや前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継を着実に行い、円滑な復籍支援を進める。

【あすなる校】

医療センターや前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継を着実に行い、円滑な復籍や進学につながる支援を進める。復籍後のアフターフォローとして前籍校に対するアンケート等を実施し、退院後の児童生徒の適応状況が把握できるようにする。

○センターオブセンター機能の発揮

【緑ヶ丘校】

三重病院・三重大学病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、三重大学病院に入院する高校生の授業空白に対する支援、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。

【草の実校】

医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校の特に肢体不自由特別支援学級に向けての支援の充実を図る。

【あすなる校】

医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、発達障がい支援の拠点として各種研修会の開催など県内の小中学校への支援の充実を図る。

○3部体制による組織的・効率的な校務運営【3校共通】

本・分校3校で学校運営にあたるスケールメリットを活かし、3部体制（指導部／運営部／支援部）による校務運営のいっそうの効率化を図ることで時間外労働時間の削減につなげる。

○コンプライアンスの徹底【3校共通】

本校で作成した「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的に活用し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。

○働きやすい職場環境づくり【3校共通】

教職員が達成感や充実感を共有できる職場環境作りを進める中で職員満足度の向上を図るとともに、介護等体験や学生ボランティア等の積極的な受入によって地域資源の活用に着目した教職員の意識の活性化を図り、あわせて人材育成の場とする。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---------------|---|--|----|
| 多様な教育的ニーズへの対応 | <p>【緑ヶ丘校】 入院する児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導体制を確立する。 <活動指標> 児童生徒の授業進度を考慮した授業の実施 <成果指標> 児童生徒及び保護者アンケート結果に「本校の教育支援に満足している」と回答した割合：90%以上</p> <p>【草の実校】 重度重複児童生徒に係る各教科の指導と授業を充実する。 <活動指標> 医療センター及び外部講師と連携した授業づくりの推進 <成果指標> 教科の研究授業：12回</p> <p>【あすなる校】 発達障がいのある児童生徒に対して活用している教材を整理し、前籍校の教員に情報提供できるようにする。 <活動指標> 学部において教科指導に係る教材・支援ツールを整理、関係者会議、前籍校訪問等の機会を利用して情報を提供 <成果指標> 前籍校へのアンケートにより教科指導用の教材や支援ツール等について「活用できた」と回答した割合：70%以上</p> | <p>【緑ヶ丘校】 転出入が頻繁な中、個々の児童生徒の病状に応じた教育活動を実施 成果指標：達成 （アンケート満足度：93%）</p> <p>【草の実校】 医療センターとの連携による継続的な研究授業の実施 成果指標：達成 （教科の研究授業：12回以上）</p> <p>【あすなる校】 前籍校への教材提供等有効な支援情報の引継ぎ 成果指標：達成 （アンケート満足度：89%）</p> | |
| 前籍校への復籍支援 | <p>【緑ヶ丘校】 スムーズな復籍に向けて支援のプロセスを見直し、学習空白を感じることなく復籍できる体制を確立する。 <活動指標> 復籍支援パンフレットの周知・徹底 <成果指標> 復籍支援パンフレットの有効な活用と前籍校への周知：30校以上</p> <p>【草の実校】 必要に応じて医療センターとの連携による前籍校との情報共有を実施する。 <活動指標> 必要に応じた前籍校との情報共有の機会の設定 <成果指標> 前籍校との情報共有の実施：随時</p> <p>【あすなる校】 前籍校交流会、復籍時の前籍校訪問等の機会をとらえて児童生徒の学習状況や支援のポイント等を伝え、よりスムーズな復籍を目指す。 <活動指標> 教科指導のポイントを前籍校へ提供するための資料の作成 <成果指標> 前籍校への提供資料パッケージ（児童生徒の実態、学習状況、具体的な支援方法等をまとめた引継ぎ資料一式）の精選</p> | <p>【緑ヶ丘】 復籍支援パンフレットの有効活用 成果指標：達成 （転出者全 66 名に共有）</p> <p>【草の実校】 転出時に前籍校への引継ぎ資料の提供 成果指標：達成 （転出者全 11 名に共有）</p> <p>【あすなる校】 前籍校への引継ぎ資料のパッケージング 成果指標：未達成 個別に精選した資料提供は進めているがパッケージ作成には至らず</p> | |

センター
オブ
センター
機能の
発揮

【緑ヶ丘校】

○三重大学病院に入院中の高校生に対する I C T 機器を活用した学習支援の充実を図る。

＜活動指標＞オンライン授業の充実及び在籍校との連携強化

＜成果指標＞1人あたりのオンラインの授業の実施：10回以上

○高等学校における発達障がい支援の研究継続

＜活動指標＞高等学校における発達障がい支援のニーズ把握

＜成果指標＞本校地域支援コーディネーターの発達障がい支援員への帯同：年間30回以上

【草の実校】

○医療センターの専門家との連携に基づく授業に係る実践報告会を開催し、肢体不自由教育に携わる関係者に情報を発信する。

＜活動指標＞HPにおける各種事例の掲載

＜成果指標＞各学部とも1例以上の報告

○発達水準別に教材教具を整理し、活用しやすいように使用目的、使用方法を可視化する。

＜活動指標＞感覚と運動の両面からアセスメントを行い、個々の児童生徒の発達段階に応じた教材の提案や使用方法の支援

＜成果指標＞教材に関する相談、研修会、教材貸出実施：年5回

【あすなる校】

○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。

＜活動指標＞医療センター及び県立特別支援学校との連携に基づく発達障がい支援を行うケースの拡充

＜成果指標＞当該児童生徒の在籍する小中学校を所管するケース数の拡大：新規ケース10件

○医療センターとの連携に基づく小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援にかかる研修会の実施

＜活動指標＞発達障害支援に係る「かがやき」講座の実施および授業実践に基づく実践報告会の実施

＜成果指標＞小中学校教員および県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計：のべ250名以上

【緑ヶ丘校】

○三重大病院に入院する高校生にオンラインを活用した授業の実施

成果指標：達成

(平均29回実施)

○地域支援コーディネーターによる高等学校への発達障がい支援

成果指標：未達成

(21回)コロナ影響

【草の実校】

○HPへの実践事例の公開

成果指標：達成

(各学部計3事例)

○可視化した教材教具の相談及び貸出

成果指標：達成

(貸出14件、相談35件、研修会12件)

【あすなる校】

○医療センター及び県立特別支援学校との連携による小中学校への支援

成果指標：達成

(新規対応小中学校：12校)

○発達障がい研修会(当初は8月)の実施

成果指標：達成

集合研修会の代わりにオンデマンド活用の研修会を3回実施

(参加者総計440名)

改善課題

多様な教育的ニーズに対応するため、3校とも本人・保護者や前籍校、病院・関係機関と緊密に連携し、ニーズの把握に基づく教育を進めたところ、一定成果指標を達成できた。今後もより積極的に連携を図ることでニーズを丁寧に洗い出し、丁寧な指導を進めたい。

前籍校への復籍支援としては、よりスムーズな復籍につながるよう前籍校への情報共有を進めたことで一定の成果は得られたが、今後は情報の活用状況までを把握し、より効果的な支援のパッケージングと伝達方法について検討を続けたい。

センター的機能に係る地域支援等については、コロナ禍もあり、慎重にならざるを得なかったが、入院中の高校生へのオンラインを活用した支援の充実や「かがやき講座」のオンデマンド研修化等によって一定成果指標を達成することができた。機器など教育環境の整備が進んだことをふまえ、今後は在籍校との連携強化や新たなスタイルの研修の模索など検討していく必要がある。

(2) 学校運営等

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------------------------|--|---|----|
| <p>組織的・効率的な校務運営による働き方改革の推進</p> | <p>【3校共通】 本・分校3校の運営基盤となる3部体制のあり方を恒久的に改善し、より組織的・効率的な学校運営に努めるとともに、教職員一人ひとりの勤務内容を見直し、改善を図ることで時間外労働時間の削減、年休取得日数の増加など、働き方改革を推進する。 <活動指標> 定期的な管理職会議及び主幹教諭を中心とした3校会議の精選による業務改善（特に教職員の働き方改革に留意）に向けた継続的な検討 <成果指標> ○1人当たりの月平均時間外労働時間：30時間以下 ○年360時間を超える時間外労働者の人数：0人 ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ○1人当たりの年間休暇取得日数：昨年度比1日増 ○定時退校日に退校できた教職員の割合：100% ○会議の効率化（60分以内）の割合：70%以上</p> | <p>成果指標：達成困難 各校年間実績は以下 【3校共通】 年360時間超：0人 月45時間超：0人 会議効率化：75% 【緑ヶ丘校】 月平均時間外：4.2時間（2.6時間減） 休暇：16.9日（2.7日減） 定時退校日：95% 【草の実校】 月平均時間外：10.7時間（1.4時間増） 休暇：19.0日（1.6日増） 定時退校日：80% 【あすなる校】 月平均時間外：9.9時間（3.3時間増） 休暇：17.4日（0.2日増） 定時退校日：83%</p> | |
| <p>コンプライアンスの徹底</p> | <p>【3校共通】 ○「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用により教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。 <活動指標> 全教職員によるセルフチェックの毎学期の実施 <成果指標> 期首面談等の際のチェックリストを話題にした意見交換：全員 ○防災など危機管理事案への対処について定期的に検討する機会を持つ。 <活動指標> 定期的な避難訓練（三重病院、医療センターとの連携を含む）の実施と危機管理マニュアルの見直し <成果指標> 避難訓練の実施回数：各校3回以上</p> | <p>【3校共通】 ○毎学期のセルフチェック実施 成果指標：達成 各校共通のコンプライアンス研修を開催 ○各校における定期的な避難訓練の実施 成果指標：達成（避難訓練：各3回）</p> | |
| <p>働きやすい職場環境づくり</p> | <p>【3校共通】 教職員一人ひとりの勤務内容を見直し、改善を図ることで生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。 <活動指標> 本校作成の「教職員満足度アンケート」の実施 <成果指標> 同アンケートにより「日々の仕事にやりがいを感じ生き生きしている」と回答した教職員の割合：70%以上</p> | <p>【3校共通】 教職員満足度アンケートの実施 成果指標：達成（満足度：71.8%）</p> | |

改善課題

学校運営については、今年度から配置された主幹教諭を中心に3校会議を精選したことで会議の回数削減と内容のスムーズな校内共有を進めることができた。しかしながら働き方改革推進という点では一部指標の達成が困難であったことから、実効的な取組が必要である。

コンプライアンスの徹底については、学期毎のチェックリストによる自己点検の徹底に加え、3校が共通の内容で研修に取り組むなど、成果指標を達成できた。今後はさらに人権への配慮を含めて各自の意識を高める取り組みを継続したい。

働きやすい職場環境づくりについて成果指標は達成できたものの、新型コロナウイルス感染症への対応にあたっては、病院併設校として厳格な対策が求められており、教職員にとっては精神的な負担につながる面もあったことから、より安心できる職場環境作りが求められる。

5 学校関係者評価

| | |
|---------------------|---|
| 明らかになった改善課題と次への取組方向 | <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の中、小中学校ではオンライン授業が出席として認められているので、三重大学病院に入院する高校生への支援についても出席や単位履修につながるようになるとよい。・緑ヶ丘校で進めている高等学校への発達障がい支援について、子ども心身発達医療センターの外来でも多くの高校生に対応していることから、あすなる校との連携がより強化できるとよい。・心が傷ついて病院に入院している子どもにとって教員との相性は非常に重要なことから、教員の資質向上とともに、難しいと思うが教員の教科別複数配置など体制面で配慮いただきたい。・草の実校のセンターオブセンターの役割を十分に発揮していくための人的配置や三重病院に入院する草の実校在籍の児童生徒に係るセラピー等の連携強化が必要になっている。・病院に入院する子どもたちが安心して学習できる環境が不可欠であり、入院のタイミングは様々ではあるが、必要な教員数の配当を働きかけるなど県教委としっかり連携してもらいたい。・地域との連携のあり方については学校も病院もしっかり検討していくとともに、学校と地域の相互の情報発信等によって接触機会を増加させるなど具体的な取組を進める必要がある。 |
|---------------------|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <ul style="list-style-type: none">・入院状況下であり多様な教育ニーズを示す子どもたちがコロナ禍の中にあっても安心して学校生活を送れるよう徹底した感染症対策のもとで充実した教育を展開するとともに、退院後にスムーズに復学できるよう、病院はもとより前籍校とより強固に連携することによって丁寧な復籍支援に努めたい。・病弱、肢体不自由、発達障がい等の指導・支援に係る情報を県内外に積極的に発信するなどして、センターオブセンターの役割をより強力に発揮したい。 |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none">・働き方改革に係る取組（年間休暇取得日数の増加、定時退校日の全員退校、会議の効率化）で十分な成果が上げられなかったことをふまえ、学校全体における業務のさらなる精選とともに各教職員の業務の平準化を図るなど、時間外労働時間の削減等につながる実効的な取組を進めたい。・コンプライアンスについては現在活用中のセルフチェックリストを継続実施するとともに、内外の教職員の不祥事に係る事案の紹介や研修の実施などを通して恒常的に自らの行動を振り返る姿勢と態度を教職員集団に定着させたい。・職員満足度については、さらなる向上につながるよう、新型コロナウイルス感染症対策に係る不安払拭の取組を病院と連携して進めるとともに、面談等を通して各教職員が意欲的、主体的に働ける目標の設定について共有を図りたい。 |